

## 『都市と社会』執筆要領

1. 本誌に掲載される研究論文は、原則として 30,000 字を上限とする（注、図表、写真、参考文献表記などを含む）。英文の場合は、刷り上がり 20 頁を上限とする。ただし、編集委員会が認める場合はこの限りではない。

2. 投稿は随時受け付け可能とし、毎年の最終締め切りを 9 月末日とする。

3. 本文は以下のとおりに作成する。

### ①原稿

- 1) 日本語もしくは英文、横書きとする。
- 2) A4 判、1 ページ 35 行、1 行 40 字の様式で、ワープロソフトで作成し、Microsoft Word の形式（doc.もしくは docx.）で提出する。
- 3) 1 ページ目には表紙をつけ、論文タイトル（日本語・英文両方）、執筆者の名前（複数の場合は全員）と所属（いずれも日本語・英文両方）、査読結果等の連絡先（メールアドレス）を記載すること。
- 4) 2 ページ目には、論文タイトル、キーワード（日英各 5 語以内、キーワード間は読点ではなくコンマを入れること）、要旨（日本語 500 字以内および英文 300 ワード以内）を記載してから本文を始めること。
- 5) 原稿にはページ番号ならびに行番号を必ず付すこと。

### ②句読点

- 1) 和文：本文中の句点は「。」、読点は「、」。ともに全角とする。
- 2) 英文：半角の「.」と「,」とする。

### ③数字

- 1) 数字はアラビア数字を原則とし、場合に応じて漢数字とする。
- 2) 年号は原則として西暦で表記し、算用数字を用いる。

### ④見出し

- 1) 節、項、目の 3 つまでにとどめ、それぞれゴシック体にする。  
例、節は § 1, 項は 1-1, 目は 1-1-1

### ⑤図表

- 1) 刷り上がり 1/2 ページ大の場合は 500 字分、刷り上がり 1/4 ページ大の場合は 350 字分として換算する。
- 2) 図と表はそれぞれ連番を付し、簡潔な見出しをつける。（例、図 1-1.表 1-1）
- 3) 図表が出版物からの引用の場合は出典を明記し、必要に応じて著作権者の許可を得る。

### ⑥注

- 1) 注は、本文中の該当箇所に、右肩上付きで、1)、2)、3)、・・・と順に示し、注自体は本文の後に一括して記載する。

## ⑦文献引用

- 1) 参考文献は、注の後に一括して記載する。
- 2) 文献リストは言語ごとに関、著者名は、日本語の場合は、あいうえお順、英文の場合は、アルファベット順で記載する。
- 3) 書式は以下とする。
  - a. 邦語文献
    - ・単行本：著者名（刊行年）『本題 副題』出版社。 ※本題と副題の間は全角空白
    - ・単行本所収の論文：著者名（刊行年）「論文名」編者名『書名』出版社，××-××頁。
    - ・雑誌論文：著者名（刊行年）「論文名」『雑誌名』×巻×号（または×号），××-××頁。 ※カンマとピリオドは全角にすること。
  - b. 欧文文献
    - ・単行本：著者名.(刊行年) 書名, 出版地: 出版社.
    - ・単行本所収の論文：著者名.(刊行年)"論文名," In: 編者名, 書名, 出版地: 出版社, xx-xx 【頁範囲】.
    - \*ファースト・ネーム、ミドル・ネームはイニシャルのみ、またはすべて記載のどちらでもよいが全体で統一すること。著者名は姓名の順。共著の場合 2 人目からは名姓の順。  
〔例〕 Marx, K. and F. Engels または Marx, Karl and Friedrich Engels
    - \*翻訳のある場合については下に例示した。
    - \*韓国語、中国語など欧文以外の文献は全体で統一した表記をとること。
  - c. その他
    - ・新聞記事、Web サイトについては下の例を参照のこと。短いテキストの場合はタイトルを「」（和文）、"」（欧文）で囲み、本などは『』（和文）、斜体（欧文）とする。

### 例（邦語文献、外国語文献の順）

- ① 単行本
  - 阿部昌樹（2003）『争訟化する地方自治』勁草書房。
  - Castells, M. (1977) *The Urban Question: A Marxist Approach*, London: Edward Arnold. (=1984, 山田操訳『都市問題 科学的理論と分析』恒星社厚生閣.)
- ② 単行本所収の論文
  - 阿部昌樹（2010）「自治体間競争と自治体間連携 日本」加茂利男・稲継裕昭・永井史男編『自治体間連携の国際比較』ミネルヴァ書房, 159-181 頁。
  - Harvey, D. (1982) "Labour, Capital and Class Struggle: Around the Built Environment in Advanced Capitalist Societies," In: Giddens, A. and D. Helds (eds.) *Classes, Power, and Conflict*, Hampshire: MacMillan Press, 545-561.
- ③ 雑誌論文
  - 阿部昌樹（2013）「法的正義と今ここでの正義」『法社会学』78号, 7-29 頁。

Alinsky, S. (1941) "Community Analysis and Organization," *American Journal of Sociology*, 46(3), 797-808.

④ 新聞記事

「大阪モノレール9キロ延伸計画、府と東大阪市合意へ」『朝日新聞』2015年7月22日夕刊。

Bobette, A. "Occupy Central Is Really a Battle over the Idea of the City," *South China Morning Post*, 25 September, 2014.

⑤ Web サイト

日本学生支援機構「発達障害」

[http://www.jasso.go.jp/tokubetsu\\_shien/faq/faq11.html](http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/faq/faq11.html) (2015年7月22日閲覧).

TWC2 (2012) *Worse Off for Working? Kickbacks, Intermediary Fees and Migrant Construction Workers in Singapore, Transit Workers Count Too*, [http://twc2.org.sg/wp-content/uploads/2012/08/Worse-off-for-working\\_initial-report\\_v2.pdf](http://twc2.org.sg/wp-content/uploads/2012/08/Worse-off-for-working_initial-report_v2.pdf) (Accessed 10 June, 2015).

4. 原稿提出先

大阪市立大学都市研究プラザ・編集委員会

[toshi\\_henshu@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp](mailto:toshi_henshu@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp)

2018年11月1日作成

2019年1月16日改訂

2019年5月8日改訂